
おばあちゃんの花火

弥招 栄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おばあちゃんの花火

【Nコード】

N4577C

【作者名】

弥招 栄

【あらすじ】

夏になると、おばあちゃんはいつも私を連れて花火を見に行ってくれた。だけど、おばあちゃんはいつも花火を見上げて泣いていた。

一緒に花火を見上げるとき、おばあちゃんはいつも泣いていた。頬を伝うしずくに、色とりどりの火花を映しながら、いつもこうつぶやいていた。

あの爆弾が、みんな花火だったらよかったのに

突然の空襲警報が、暗い夜空を震わせた。

小さな小さなこの国は、大きな大きな世界を相手に、もうずいぶん長い間戦っていた。

最初は、絶対勝てると思っていた。

兵隊さんたちはとっても勇敢だったから、向かうところ敵なしで、小さなこの国の何倍も大きな国を占領したりした。

だけどやっぱり、世界はとっても大きくて。

気がつけば周りにはみんな敵だらけ。

船は全部沈められて、飛行機は全部落とされて。

ブンブンと飛ぶ敵の飛行機を窓の隙間から見上げながら、家の中でみんなうずくまっていた。

敵は、すごい爆弾を作ったそう。それ一発で、国がひとつ吹き飛ぶそう。

しばらくなかった空襲警報が鳴ったのは、そんなうわさを聞か

い人が、国に一人もいなくなったところだった。

敵の飛行機はそれまでと違って、とっても高い夜空の上をまっすぐ飛んできた。

みんな、きつとあの飛行機がそうだ、きつと、新型爆弾が落ちるんだ、そう思った。

だから、兵隊さんが声を荒げて避難するようになんてどなつても、誰も言うことを聞かずに空を見上げていた。

だって、国が吹き飛んでしまうんだから。逃げる場所なんてどこにもないんだから。

だったら、大切な家族と、大好きな友達と、一緒に空を見上げていたい。

小さな国の真上にやってきた、ずんぐりとした敵の飛行機は、その腹から大きな爆弾をポロリと落とした。

それはヒューヒューと風を切りながら、くるくると回りながら、小さな国のたくさんの人めがけて落ちる。

小さな国のたくさんの人は、それが爆発する瞬間から目をそらすまいと、空を見上げる。

そして、まばゆい光が、夜空に輝いた。

そして、大きな音が、人々のおなかをずんと揺らした。

それは それはまるで、小さな国全部を包み込んでしまうくらいに、大きな花火。

赤や緑や橙の火花が、スーッと淡く跡を引いて、暗い夜空を金銀錦に染め上げて、消える。

それから、最初の飛行機につづいて無数の飛行機が飛んできて、その腹からぼろぼろぼろと爆弾を落とす。

それらもみんな、色とりどりの花火。

小さな国のたくさんの人は、顔を赤や緑の光で照らされながら、歓声を上げた。

だけど一人の兵隊さんが、ごろごろと音を立てながら、大砲をひいてくる。玉を込め、火をつけて

人々が息を吞んで見つめる中、敵の飛行機めがけて一直線に飛んでいった砲弾は、バーンとはじけて、大きな大きなきれいな花火。

戦争中、東京から広島へ嫁に来たおばあちゃんは、両親を東京大空襲で失い、夫を原爆で亡くした。

私のお父さんを身ごもっていたおばあちゃんは、そのときおじいちゃんの実家に疎開していて、無事だった。

だけど、山の向こうで輝いた閃光と、その後響いた爆音、天に向かって伸びてゆくきのこ雲をはつきりと覚えているって、何度も何度も私に話して聞かせた。

夏になると、何度も何度も花火を観に連れて行ってくれたおばあちゃん。

私は今、一人で花火を見上げながら、おばあちゃんの流す涙を思い出す。

みんな、みんな、花火だったらよかったのに……

(f i n)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4577c/>

おばあちゃんの花火

2010年10月10日23時43分発行